



いつでも  
all  
season



- ①世界40か国の木のおもちゃを展示
- ②木のプールなど、見るだけではなく遊べるコーナーも充実
- ③子どもの日の前にはたくさんのこのほりがお迎え
- ④メルヘンの世界が広がる館内

■開館時間  
【4月～10月】午前9時30分～午後6時  
【11月～3月】午前10時～午後5時

■定休日  
【4月～10月】なし  
【11月～3月】毎週月曜日  
※祝祭日は開館し、翌日休館  
※12月28日から1月1日までは休館

■入館料 中学生以上600円  
小学生300円 幼児無料

■駐車場 有り

■HP <http://cha2world.com/>

■問合せ ☎0158 - 49 - 4022

## 遊

### 木のおもちゃワールド館 ちゃちゃワールド

えんがるがいとまっぶP18 ↓ ⑩

世界約40か国の木のおもちゃを集めたミュージアム。おとぎ話に出てくるお城のような建物に足を踏み入れると、そこにはメルヘンの世界が広がっています。

館内には、からくりおもちゃやあやつりおもちゃ、くるみ割り人形など、大きささまざまな1万点もの木のおもちゃが展示・收藏されています。

見るばかりではなく、木の玉のプールや滑り台があるあそびのひろば、ふれあいおもちゃ、ネフ社のおもちゃ、積木のコーナーなど、手にとって遊べる場所もいっぱい。

また、初心者の方でも安心して木のおもちゃづくりが楽しめる「木工房ゼペット」や、銀河鉄道の夜でも知られる影絵の巨匠・藤城清治氏の作品を展示した「影絵美術館」も併設されています。

このほかに、館内で遊べるおもちゃが買える売店のほか、季節にちなんだイベント、期間限定の作品展が盛りだくさん。見て、触れて、楽しめる。木のぬくもりがたっぷりのメルヘンワールドは、子どもだけでなく、大人も楽しめる「夢」と「感動」の宝箱です。

## 見

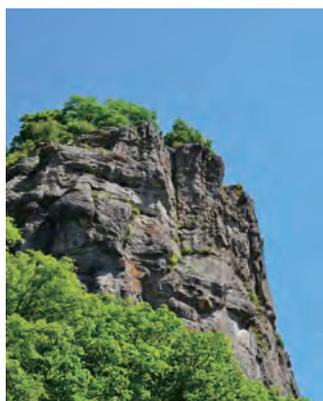
### 名勝ピリカノカ 瞰望岩(インカルシ)

えんがるがいとまっぶP18 ↓ ⑩

高さ約78メートルの瞰望岩は、アイヌ語で「インカルシ」(見張りするところ、眺望するところという意味)と呼ばれ、遠軽の町名はこの言葉に由来するなど、町のシンボリックな存在です。

名勝「ピリカノカ」(アイヌ語で美しい、形という意味)とは、アイヌの物語や言語に彩られた優秀な景勝地群を総称した国指定の景観文化財のことで、瞰望岩を中心とした周辺一帯は、全道数多くある候補の中で5番目の構成資産として追加指定されました。

瞰望岩は、遠軽市街のあらゆる所から望むことができ、その場所ごとに表情が変わります。周辺は市街地でありながらも自然度が高く、希少な植物も観察できることなどから、北海道自然百選にも選定されています。



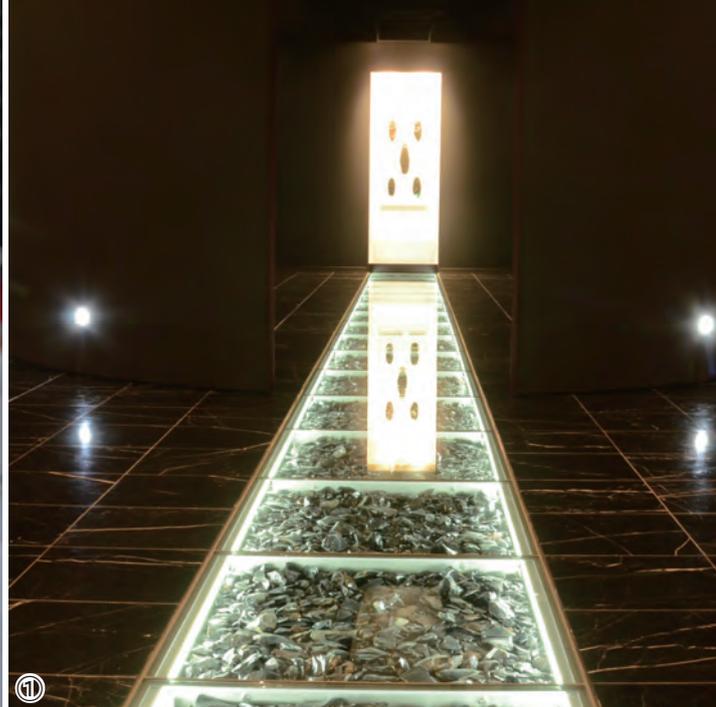
ミニ知識：木のおもちゃワールド館ちゃちゃワールドの「ちゃちゃ」は、英語で子どもを意味するチャイルドの「チャ」と、おもちゃの「チャ」を表しています。



③



②



⑪



④

- ①町の石でもある「黒曜石」が敷き詰められた遠軽町埋蔵文化財センターの「黒曜石の道」
- ②クリスマス時期に行われる黒曜石ツリーづくり
- ③夏季のみ行われるジオツアーでは、黒曜石の溶岩にじかに触れることができる。(予約必要) 写真は「八号沢露頭」
- ④とんぼ玉づくりやまが玉づくりなどの体験学習(有料)も行える

■開館時間 午前9時～午後5時

■入館料

- ・白滝ジオパーク交流センター 無料
- ・遠軽町埋蔵文化財センター 大人300円 高校生以下150円 幼児無料

■駐車場 有り

■HP <http://geopark.engaru.jp/>

■その他 ジオツアーは夏季間のみ。日程等は要確認

■問合せ

遠軽町白滝教育センター ☎0158 - 48 - 2213  
 遠軽町総務部ジオパーク推進課 ☎0158 - 48 - 2020

「ジオサイト」を案内する「ジオツアー」も行っています。

また、併設する遠軽町埋蔵文化財センターでは、黒曜石石器展示のほか、石器づくりなどの体験学習を行うことができます。旅の記念に、とんぼ玉やまが玉など、世界に一つだけのアクセサリを作ってみてはいかがでしょうか。

見

### 白滝ジオパーク

えんがるがいとまっぶP19 ↓ ⑪

今からおよそ220万年前に、石や岩が高温で溶けた「マグマ」が噴火し、ここ白滝で生み出された日本で最大規模の黒曜石。ほとんどがガラスで出来ているこの黒曜石は、割れた断面が刃物のように鋭くなり、旧石器時代にはこの切れ味を利用した人々がいました。生活に必要な資源だった白滝の黒曜石は、現在のサハリンから本州まで広がっていることが確認されるなど、当時の人々にとって、なくてはならないものでした。

「ジオパーク」とは、地球の活動によってもたらされる、その地域特有の自然や歴史・文化など学びながら「大地のめぐみ」を味わうことができる場所。白滝ジオパーク交流センターでは、黒曜石や北海道の大地の成り立ちを学ぶことができるほか、見どころである「ジオサイト」を案内する「ジオツアー」も行っています。

また、併設する遠軽町埋蔵文化財センターでは、黒曜石石器展示のほか、石器づくりなどの体験学習を行うことができます。旅の記念に、とんぼ玉やまが玉など、世界に一つだけのアクセサリを作ってみてはいかがでしょうか。

見

### 合気道ゆかりの地碑

えんがるがいとまっぶP19 ↓ ⑪

白滝地域(旧白滝村)は、合気道の開祖植芝盛平翁が団長を務める紀州団体54戸が入植した明治45年(1912年)3月を開基としています。

他の団員とともに開拓の鋤をふるった盛平翁は、当時の上湧別村(現在の遠軽町全域と湧別町の一部)の議会議員としても若き手腕をふるいました。

また大正4年には、遠軽市街の旅館で、大東流合気柔術の宗家武田惣角氏と出会い、氏の弟子となつて修行に励み、合気道の基礎を確立したと伝えられています。

父危篤の報により、大正8年にこの地を離れることとなった盛平翁は、その後も武道修行に専心し、合気道を確立しました。

現在でも、盛平翁のさまざまな足跡が残されている白滝地域には毎年、多くの関係者が合宿などで訪れます。



翁が入植した上白滝の地に建立された石碑

ミニ知識：植芝盛平翁を縁として、ゆかりのある本町と茨城県笠間市、和歌山県田辺市、京都府綾部市の4市町間で友好都市提携を結び、災害時での相互応援をはじめ、友好関係を深めています。